

# 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[ダウンロードはドライバ ISO バンドルを必要としました](#)

[RHEL 7.0 か CentOS 7.0 をインストールするステップ](#)

[確認](#)

[RHEL 6.5 か CentOS 6.5 をインストールするステップ](#)

[確認](#)

[インストール確認を掲示して下さい](#)

[関連情報](#)

## 概要

この資料に局部記憶装置を使用して Cisco Unified Computing System ( UCS ) M シリーズ サーバで RedHat 企業 Linux ( RHEL ) または CentOS Linux をインストールする方法を記述されています。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco UCS Manager 2.5 か 3.1 バージョン
- ストレージ プロファイル
- Linux オペレーティング システム ( OS )

### 使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は UCS M シリーズに基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

## 背景説明

Cisco M シリーズ モジュラ サーバは Composable インフラストラクチャ 設計を表す Cisco 製品の 1 つです。モジュラ サーバに局部記憶装置すべてのサーバによって共有することができる中

央集中型ストレージがありません。 共用記憶機構にアクセスするために、OS はストレージ ネットワーク インターフェイス カード ( sNIC ) として呼出される新しい小型 コンピュータ システム インターフェイス ( SCSI ) ドライバを必要とし、OS のためのインストールの間にディスクを検出するために追加されなければなりません。

この資料のこれからのセクションは方法で情報をドライバをダウンロードし OS インストールの間にインストールする提供します。

## ダウンロードはドライバ ISO バンドルを必要としました

UCS ハードウェアとソフトウェアの相互運用マトリックスは、特定の OS、デバイス、ファームウェアの組み合わせに必要なドライバ バージョンを示しています。 行列ユーティリティ ツールおよび行列 PDFs へのこれらのリンクは、必須ドライババージョンを判別します。

[UCS ハードウェアとソフトウェアの相互運用マトリックス ユーティリティ ツール \( 英語 \)](#)  
[UCS ハードウェアとソフトウェアの相互運用マトリックスの PDF \( 英語 \)](#)

ドライバ バンドルをダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. [Web ブラウザで、http://www.cisco.com に移動します。](http://www.cisco.com)
2. サポートの下で、> [すべてのダウンロードはダウンロードにナビゲート](#) します。
3. [サーバ - ユニファイド コンピューティング](#) をクリックして下さい。
4. [UCS M シリーズ モジュラ サーバソフトウェア](#) を選択して下さい
5. [Unified Computing System (UCS) Drivers] をクリックします。
6. ダウンロードするバンドルを選択し、[Download Now] をクリックします。

## RHEL 7.0 か CentOS 7.0 をインストールするステップ

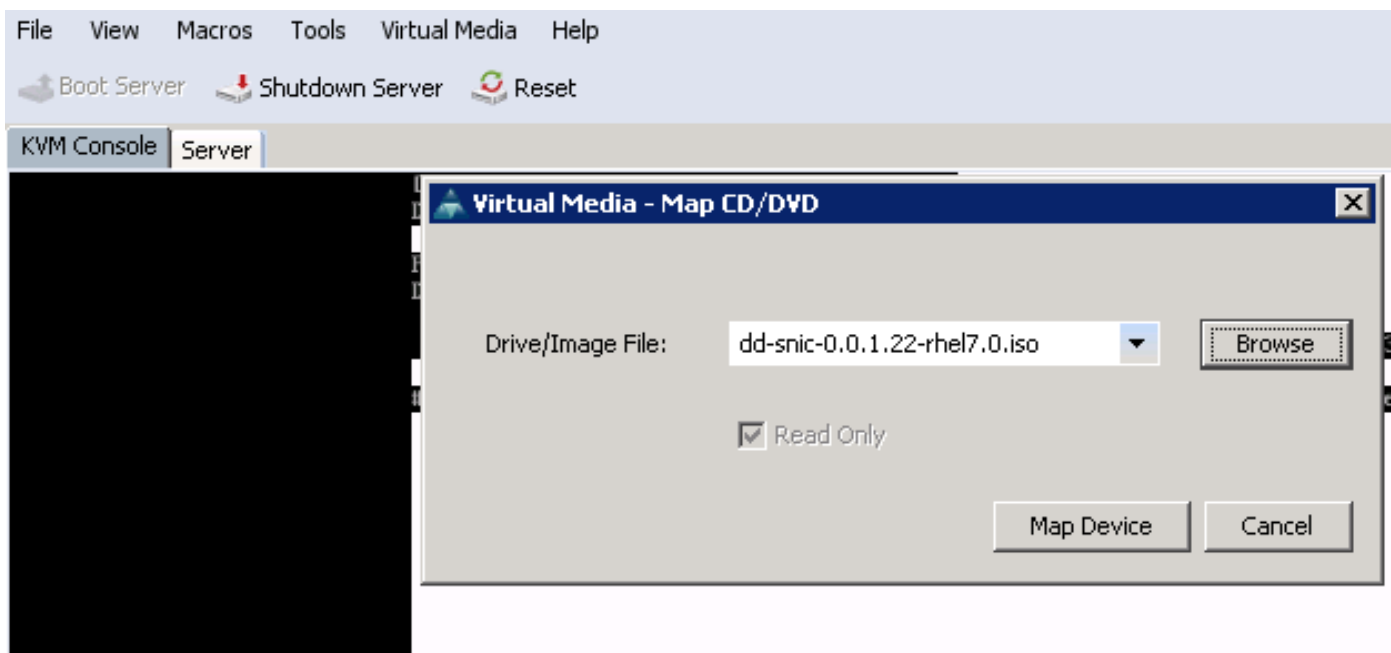
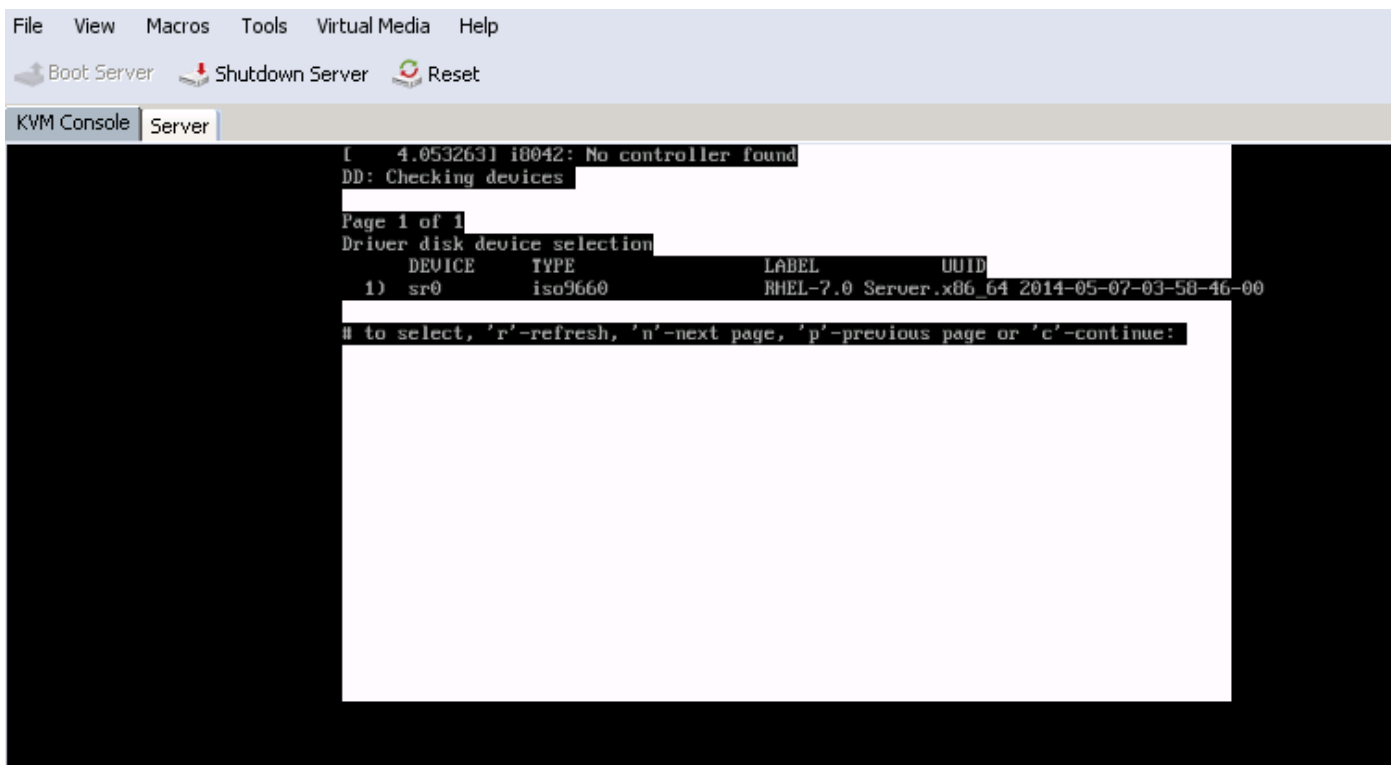
ユーザがサーバの上で動力を与えた仮定され、OS インストール ISO イメージから起動することを設定しますこと。

ステップ 1: OS インストール ウィザードの最初の画面で、強調表示インストール RedHat 企業 Linux 7.0 オプションは表示するために **Tab** キーを押しましたり/インストーラの追加ブートパラメータを追加し。 **dd** キーワードを端に追加し、イメージに示すようにキーを『Enter』 をクリックして下さい。

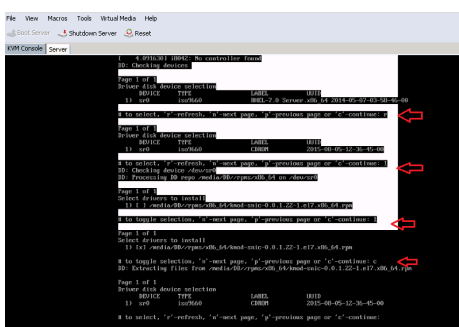


ステップ 2: インストーラはイメージに示すようにドライバ ディスク ( dd ) ファイルのソースを

、識別するために奪取します。このステップでは、unmap は OS インストール イメージ sNIC  
ドライバ ディスク ISO ファイルをマッピングし。



ステップ 3.メディアを再スキャンし、『1』を選択するために r を押して下さい。それによっ  
てはドライバ ディスク ISO に含まれている sNIC ドライバ RPM ファイルが入隊します。ドライバ  
が含まれ、イメージに示すようにドライバを、ロードするために c を押すために『1』を選択し  
て下さい。



ステップ 4 ドライバがメモリスぺースに得られれば、unmap はドライバ ディスク ISO OS イン

ストール ISO ファイルをマッピングし。それを再スキャンし、イメージに示すように OS インストール ウィザードを、続行するために **c** を押すように **r** を押して下さい。

```
# to select, 'r'-refresh, 'n'-next page, 'p'-previous page or 'c'-continue: r
Page 1 of 1
Driver disk device selection
  DEVICE      TYPE      LABEL      UUID
  1) sr0       iso9660    RHEL-7.0 Server.x86_64 2014-05-07-03-58-46-00

# to select, 'r'-refresh, 'n'-next page, 'p'-previous page or 'c'-continue: c
[ OK ] Started Show Plymouth Boot Screen.
[ OK ] Reached target Paths.
[ OK ] Reached target Basic System.
dracut-initqueue[838]: mount: /dev/sr0 is write-protected, mounting read-only
[ OK ] Started dracut initqueue hook.
      Starting dracut pre-mount hook...
[ OK ] Started dracut pre-mount hook.
[ OK ] Reached target Initrd Root File System.
      Starting Reload Configuration from the Real Root...
[ OK ] Started Reload Configuration from the Real Root.
[ OK ] Reached target Initrd File Systems.
      Starting dracut mount hook...
[ OK ] Started dracut mount hook.
[ OK ] Reached target Initrd Default Target.
```

## 確認

OS インストール ウィザードを続行すれば、ストレージ プロファイル ポリシーによって中央集中型共用記憶機構で作成される論理的装置番号 ( LUNs ) は sNIC ドライバの助けによって OS によって検出する。

INSTALLATION DESTINATION RED HAT ENTERPRISE LINUX 7.0 INSTALLATION

Done us

### Device Selection

Select the device(s) you'd like to install to. They will be left untouched until you click on the main menu's "Begin Installation" button.

Local Standard Disks

10.24 GB	20.48 GB
Cisco UCSME-MRAID12G sdd / 10.24 GB free	Cisco UCSME-MRAID12G sde / 20.48 GB free

*Disks left unselected here will not be touched.*

Specialized & Network Disks

Add a disk...

*Disks left unselected here will not be touched.*

### Other Storage Options

**Partitioning**

Automatically configure partitioning.  I will configure partitioning.

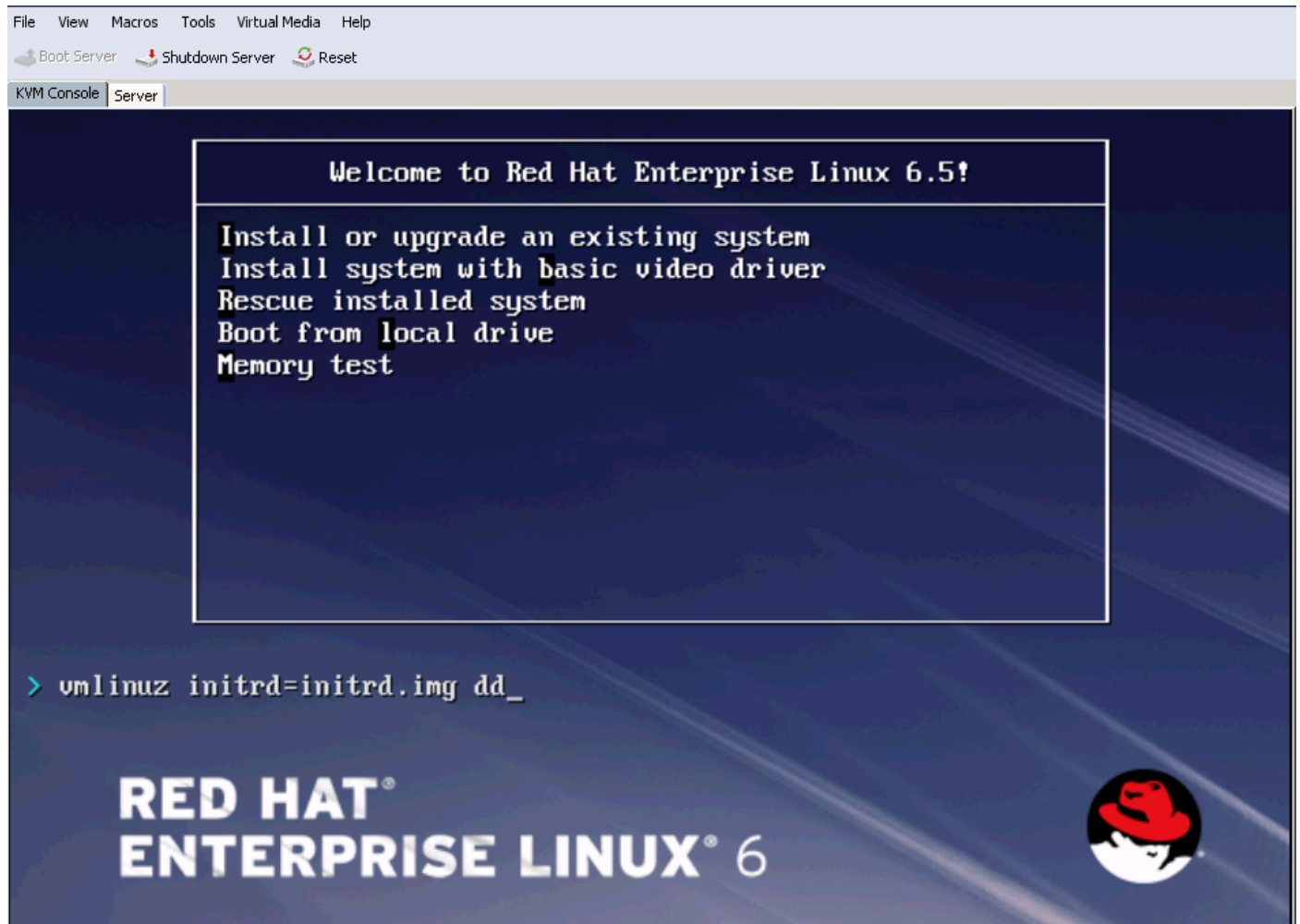
I would like to make additional space available.

**Encryption**

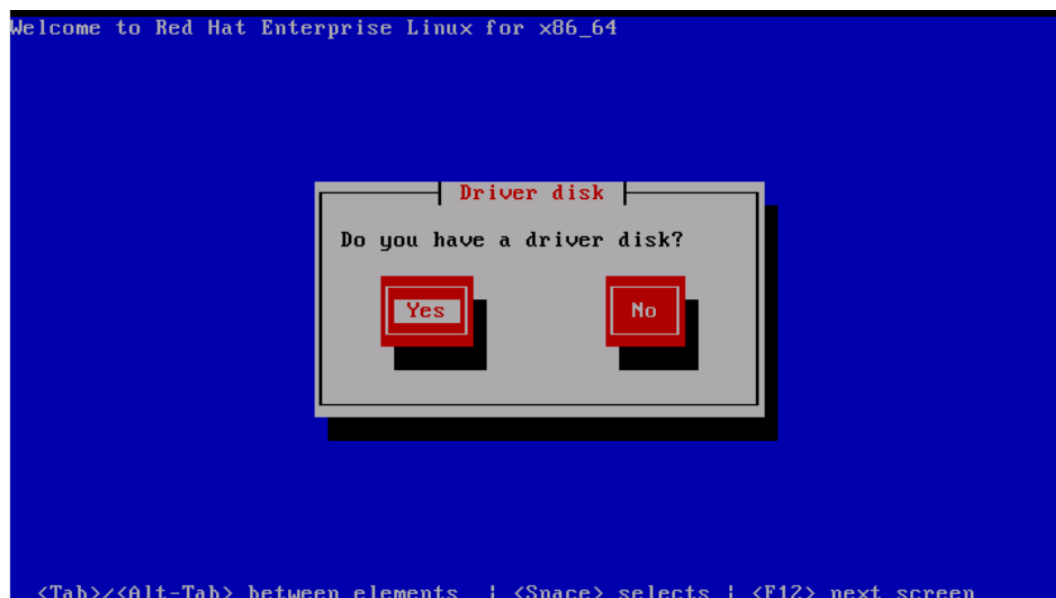
Encrypt my data. *You'll set a passphrase later.*

# RHEL 6.5 か CentOS 6.5 をインストールするステップ

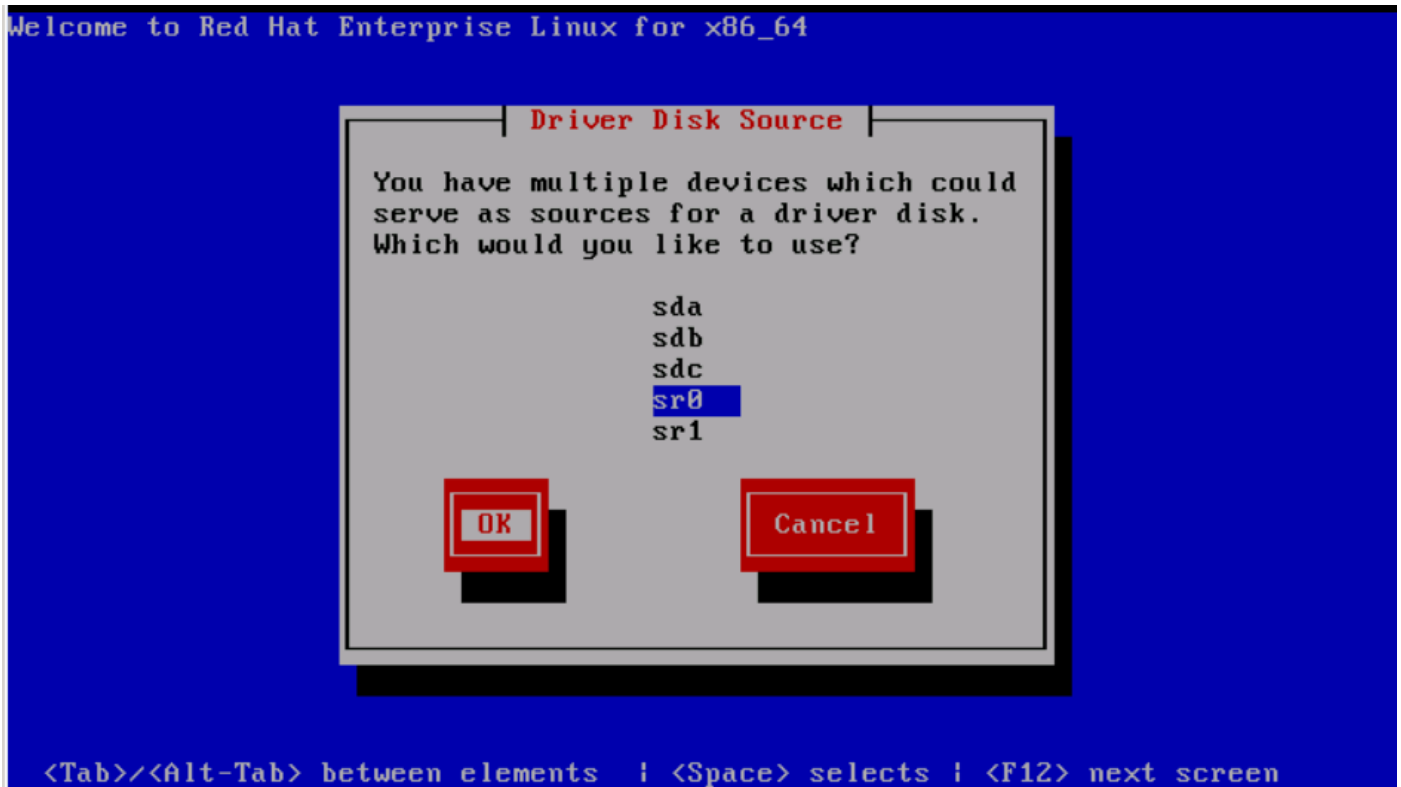
ステップ 1: OS インストール ウィザードの Welcome 画面から、インストールを強調表示し、または既存のシステム オプションをアップグレードし、表示するためにタブ キーを押して下さい/ブートパラメータを編集して下さい。ラインの端に、dd キーワードを追加し、キーを『Enter』 をクリックして下さい。



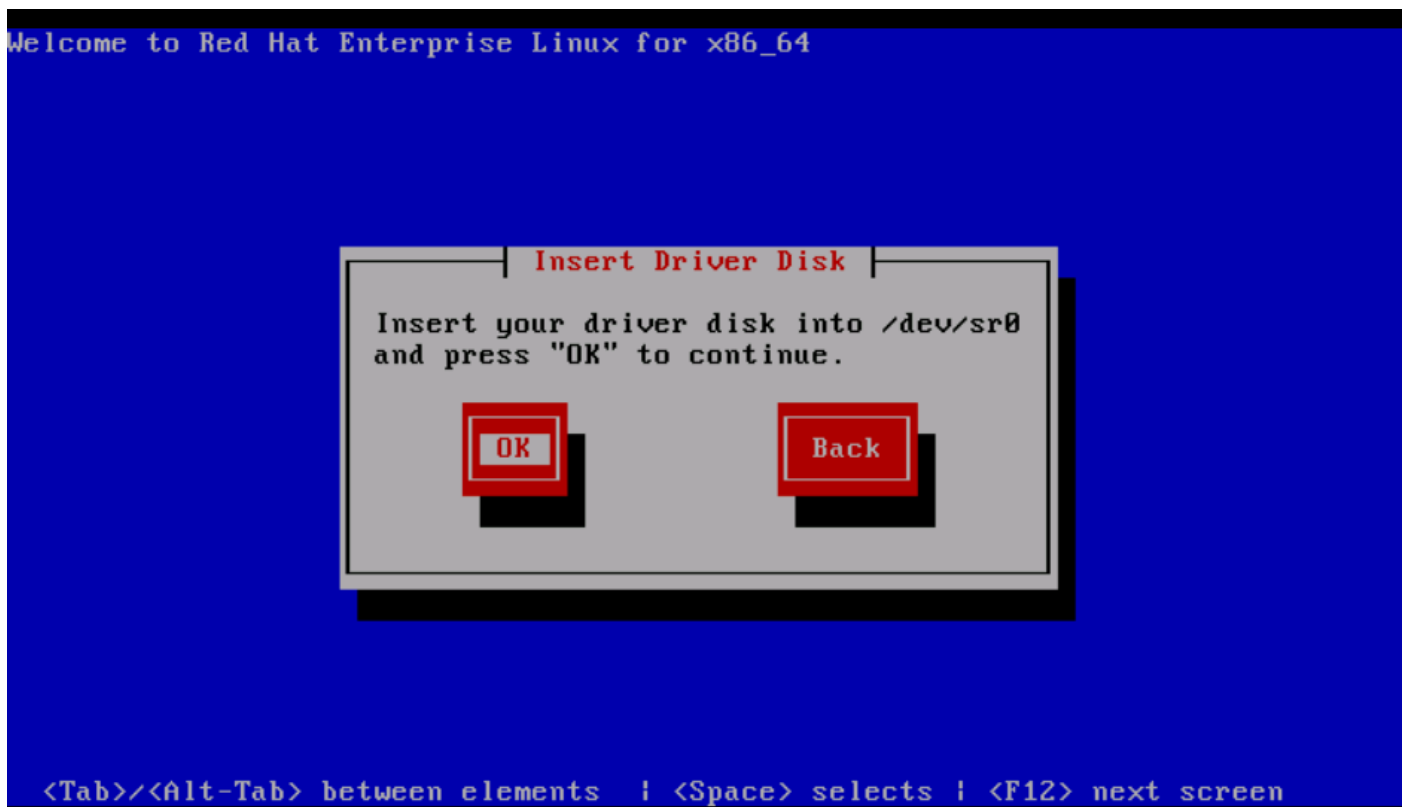
ステップ 2. ドライバ ディスクのための OS インストール ウィザード プロンプト。イメージに示すように、『Yes』 をクリックして下さい。



ステップ 3. イメージに示すように、ドライバソースの場所として **sr0** を『Option』を選択して下さい。

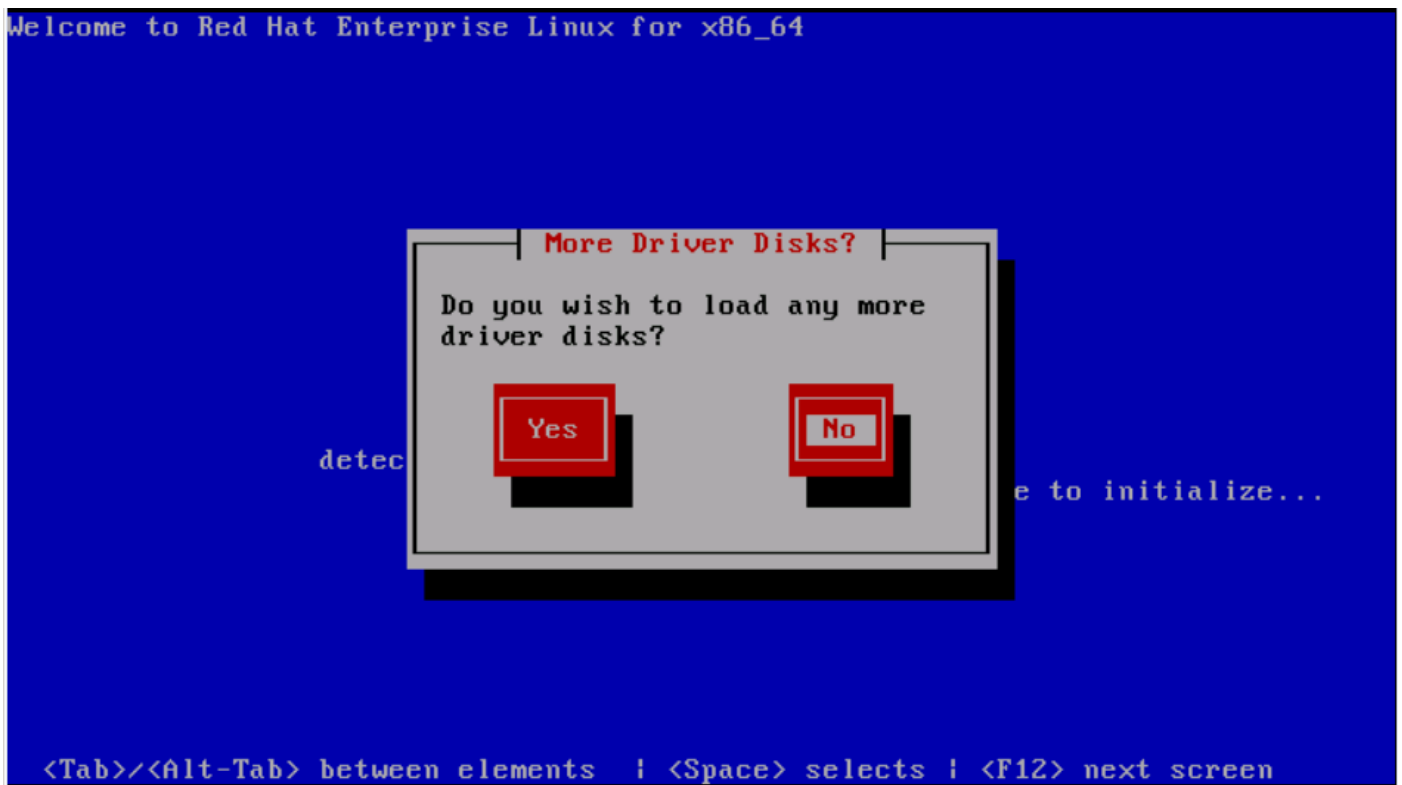


ステップ 4. Unmap OS インストール ISO は RHEL 6.5 のための sNIC ドライバ ディスク ISO をマッピングし。ドライバ ディスク ISO をマッピングした後、イメージに示すように、『OK』をクリックして下さい。



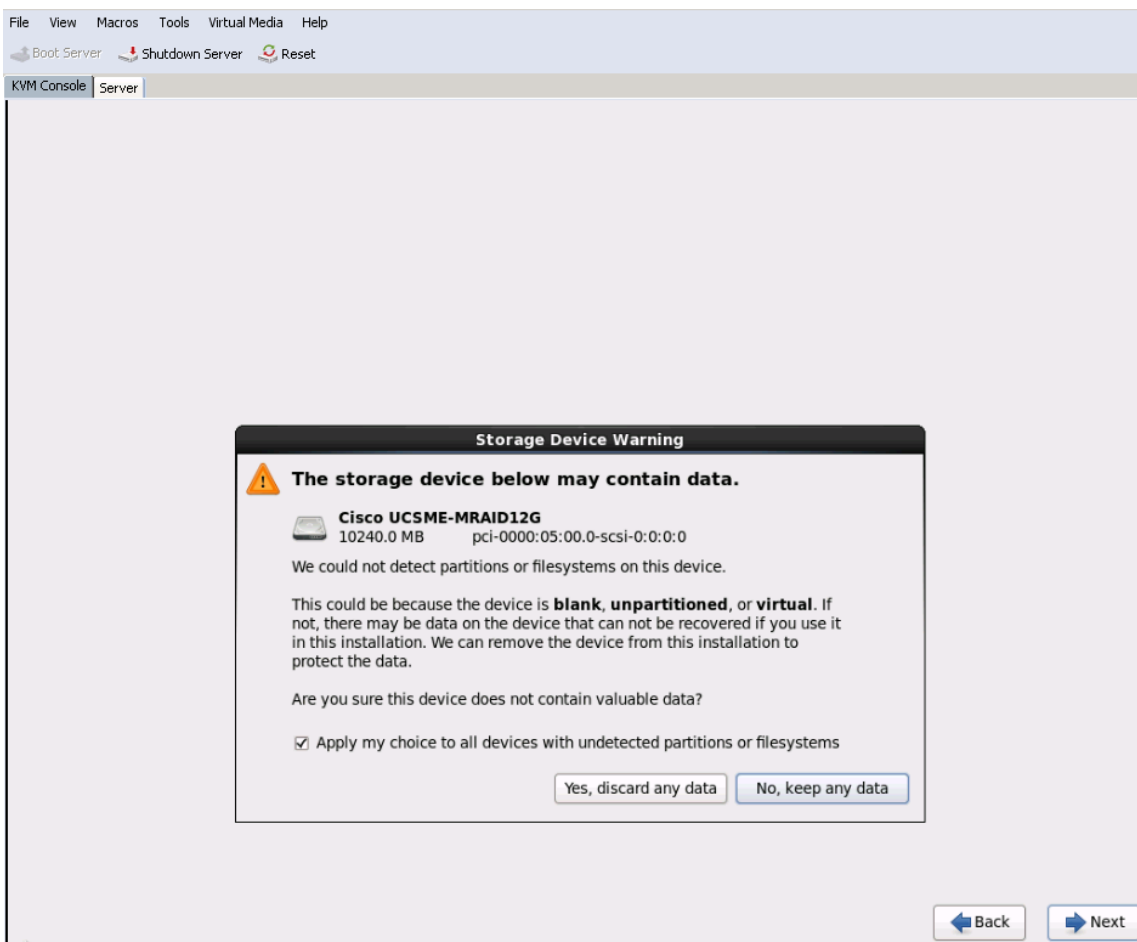
ステップ 5. OS はインストールの間に追加ドライバをロードするための sNIC ドライバおよびプロンプトを得ます。イメージおよび unmap に示すように、ドライバ ディスク ISO ファイル『No』をクリックして下さい。OS インストール ISO イメージをマッピングし、OS インストー

ルに続いて下さい。



## 確認

sNIC ドライバがロードされる場合、OS はイメージに示すように共用記憶機構 LUN を検出する。



## ポスト インストール確認

これらの OS コマンドによっては sNIC ドライバ 詳細が入隊します、

sNIC ドライバ モジュールをカーネルに表示するため

sNIC ドライバ モジュール 詳細:

snic\_admin ユーティリティの使用、

## 関連情報

- [Cisco UCS M シリーズ モジュラ サーバ](#)
- [Cisco UCS Manager \( UCSM \) コンフィギュレーション ガイド](#)
- [ビデオ- Cisco UCS Tech Talk シリーズ](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)